



## ～できることを探してみよう!やってみよう! いろんな「思いから」はじまるボランティア活動～

ボランティアセンターでは日々「ボランティアをしたい」、「ボランティアをお願いしたい」という相談を受けつけています。現在は、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い「施設での受け入れができなくなってしまっている」「コロナウイルス感染症の影響が怖い」などさまざまな影響がありますが、ボランティアに対する思いは高まっています。コロナ禍であっても「ボランティアをしたい!」と窓口相談に来てくれたお母さんと5人の子どもたち(小・中・高校生)の「思い」をご紹介します。



### お母さんの思い

子どもたちは、今までたくさんの人に支えられて成長してきているので、支えられる側から、支える側の経験をしてほしいと思いました。  
経験をすることは、子どもたちの役に立つので、色々な経験をきっかけに世界を広げてもらいたいです。



### 子どもたちの思い



人に喜んでもらえるようなことをしたいと思いました。

お姉ちゃんたちと一緒にボランティアをしたいと思いました。

いろいろな人々の背景や世界にふれて、自分のものとは別の視点を学びたいです。

たくさんの活動が行われているようで自分に合うボランティアをしたいと思いました。

人のためではなく、自分のためになるのがボランティアで、いろいろな人とコミュニケーションをとりながらみんなでひとつのことをやり遂げられるような活動してみたいです。

ボランティアを通して、成長できるようになりたいです。

### 旭区ボランティアセンターより



コロナ禍のため、すぐにボランティア活動につながらないこともあります。しかし、「ボランティアをしたい」という思いを大切にしてください。その気持ちこそがボランティア活動の第1歩です。旭区ボランティアセンターでは、みなさんの「思い」を大切にしたいコーディネートを目指しています。お気軽にご相談ください。

### ボランティア活動のご相談の流れ

ボランティア活動してみたい

活動紹介

ボランティア保険の加入

振り返り  
次回の活動紹介

受付・面談

ご相談・お問合せは

旭区ボランティアセンター

開館時間 ● 月～土の9時～17時  
(祝日を除く)

TEL ● 045-392-1133

FAX ● 045-392-0222

Email ● asavora@ceres.ocn.ne.jp



### 善意銀行に寄付いただいた方々

〈順不同・敬称略〉

令和3年6月1日～8月31日

次の皆さまから善意銀行へご寄付いただきました。ありがとうございました。

(金品寄付) 旭区舞踊協会／たかはし書道教室／ひより

(物品寄付) 神奈川県理容生活衛生同業組合旭支部



善意銀行とは、皆様からの善意の寄付金品をお預かりし、必要なところ、または希望された区内福祉施設や当事者団体、地域福祉活動団体などへ配分し、皆さまの善意を広げていく事業のことです。

### 発行 社会福祉法人 横浜市旭区社会福祉協議会

〒241-0022 横浜市旭区鶴ヶ峰1-6-35

TEL:045-392-1123 FAX:045-392-0222

http://www.palletasahi.jp/ 旭区社協

●アクセス●  
相鉄線「鶴ヶ峰駅」  
北口より徒歩8分



あさひ 共に支えられ 生きていく



## いきいき宣言

http://www.palletasahi.jp/

この広報紙は、「赤い羽根」共同募金の配分金で発行しています。

旭区社協

旭区

## ご近助ほっこり活動

生活をする中で、お隣さんやご近所のこんなことに気づいたことはありませんか?

「ポストにたくさん郵便が溜まっている」「雨戸が数日閉まりっぱなし。どうしたのかなあ」

「生活音が全く聞こえなくなったけど、長い間留守にしているのかな?」

日常生活の中での、こうした小さなご近所の変化に気づいたけれど、

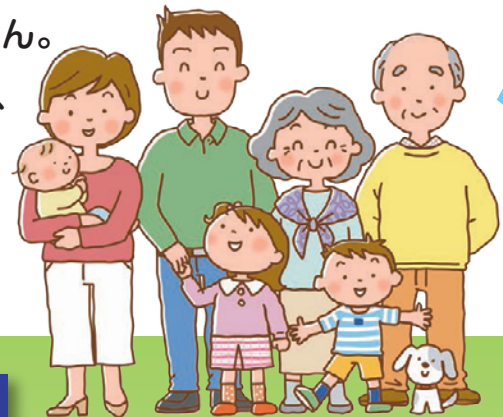
誰に相談したら良いのだろうと悩んだことがあるかもしれません。

旭区社会福祉協議会と旭区内19地区社会福祉協議会では、

ご近所さんの小さな変化に気づき、お互いさまの気持ちで

助け、助けられながら、気持ちがほっこりするような

「旭区 ご近助ほっこり活動」をスタートします。



## 地域共生社会の実現に向けて

詳しくは中面へ





# あなたの気づきで変化をキャッチ!!



## 「旭区 ご近助ほっこり活動」について

「旭区 ご近助ほっこり活動」は、普段の暮らしの中で、無理なく、お互いさまの気持ちを大切にしながら進める見守り活動です。活動を進めるにあたってのポイントや進め方についてご説明します!

### ? 「見守り」ってなんだろう

日常生活のなかで「ちょっと気になる」「ちょっと心配」という方を「お互い様」の気持ちで声をかけあったり、そっと気にかけてたりすることです。まずは、ご近所のきになる方を気にかけることから始めましょう。



### 「何に」気付けばいいんだろう

「見守り=小さな変化に気づく」には、直接お話をすることだけでなく、様々な方法があります。例えば、いつもは雨戸が開いているのに何日も雨戸が開かない場合、中で倒れていることもあるかもしれません。

小さな変化に気づくためにはイラストのようなことを参考に気をつけましょう。



視覚

- 郵便が溜まっている
- ゴミが上手に分別されていない
- 雨戸が閉めっぱなし
- 洗濯物が数日干してある
- 極端に痩せた(太った)
- 庭木が生い茂っている
- 回覧板を回すときに元気がない など



聴覚

- 生活音 (全くなくなった。もしくはすごくうるさくなった)
- 子どもの激しい泣き声 するなど



嗅覚

- 体臭がきつい
- 夕飯を作るにおいがしなくなった など

### 見守り活動の大切さ

横浜創英大学 講師 平野友康

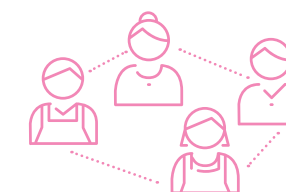
2020年の内閣府の「社会意識に関する世論調査」では、地域での付き合いが「あまりない」「まったくない」と答えた人の割合は34%となっています。つまり3人に1人が人との関係が十分つくれずにいることがわかります。その中には、頼りにできる家族や友人が近くにおらず年齢を問わず不安を抱えている人もいます。

誰もが地域で安心した生活を送るためにどうしたら良いのか。私たちは人と人とのつながりの中で生活しています。見守りの活動は、言い換えると自分の地域に関心をもつことでもあります。関心をもつことで、人とのつながりをつくり、そのことが結果として自分にとっても安心できる地域になるのではないのでしょうか。



### ご近助ほっこり活動の進め方

「旭区 ご近助ほっこり活動」では、ご近所さんの「小さな変化」に気づいてくれる人を「ほっこりさん」という呼びます。「ほっこりさん」は特別に何かするわけではなく、日常生活の中で気になることがあれば「ほっこり協力員」や「チームリーダー」に相談してください。なお、具体的な仕組みや活動は、各地区の特徴や強みを生かして取り組んでいきます。



#### ほっこりさん

身近な地域で、日常生活の中での見守り  
(例:日頃のあいさつ、雨戸が開かない等)



#### ほっこり協力員

ほっこりさんとの連携、情報交換



#### ほっこり活動チームリーダー

ほっこり協力員との情報共有、関係機関(地域ケアプラザ、民生委員等)への共有



### 第4期旭区地域福祉保健計画

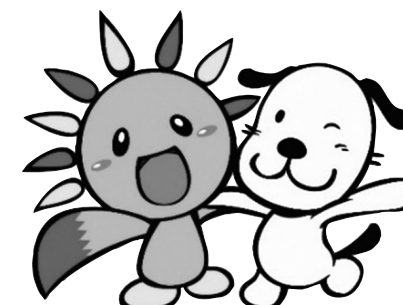
## きらっとあさひプランが完成!

### 「地域で支え合い 安心して自分らしく暮らせるまち 旭区をつくろう」



地区別計画の例

きらっとあさひプラン(旭区地域福祉保健計画)は、旭区に住むすべての方が地域で支え合い安心して暮らせるようにするための計画で、区全体に共通する課題等に対して区全域で取り組む「区全域計画」と、地区ごとの様々な課題解決のために地域の皆さんが作った「地区別計画」からできています。



このたび、令和3年度から令和7年度の5年間を推進期間とする「第4期計画」が完成しました! 完成と合わせて旭区内の各世帯には、「リーフレット あなたのきらっとなんですか?」、「お住まいの地域の地区別計画」を「広報よこはま10月号」と併せて1部ずつ配布しています。

また、旭区社会福祉協議会・旭区役所・地域ケアプラザ等でも配布しています。ぜひ、ご覧ください!

旭区役所ホームページにおいても、ご覧いただけます。 第4期きらっとあさひプラン | Q